POSを定着させる勉強会への取り組み

白鳥千恵美　大井　匡未　中村　明美
中村　美保　安井　優貴　南條　久乃

静岡赤十字病院　3-4病棟

要旨：3-4病棟の看護記録は経時記録で書かれ看護問題に沿った記録ではなかった．看護師の観察した客観的事実だけが書かれているため，看護師がどのようにアセスメントし，どのような看護を行ったのかが記録からはわからなかった．

今回，病棟の看護記録の問題点を明らかにし，3-4病棟で書かれた実際の看護記録と，その記録を元に係が作成したProblem Oriented System記録を比較するという勉強会を行った．Problem Oriented System記録の方が看護師の考えや，看護問題の経過が解りやすいと実際にスタッフに理解してもらえた事でスムーズにProblem Oriented System記録へ移行できたため報告する．

Key words：看護記録，SOAP，POS，Problem Oriented System

Ⅰ．はじめに

3-4病棟の看護記録は経時記録で書かれ看護問題に沿った記録ではない．また，看護師の観察した客観的事実だけが書かれているため，看護師がどのように判断し，どのような看護を行ったのかが記録からはわからなかった．

今回「看護が見える記録」への取り組みとして，スタッフへ勉強会を行い，Problem Oriented System（問題志向型システム：POS）を定着させることができたため報告する．

Ⅱ．看護記録の現状における問題点

まず，係の各々が日頃から思っていた3-4病棟の看護記録の問題点を挙げた．3-4病棟の看護記録は経時記録で書かれ，看護問題に沿った記録ではなく，看護師が観察した客観的事実が記載されている（SとOだけの記録でAがないため看護師の考えがわからない）．そのため，看護師が観察した情報からどのように患者の状態を読み取り，どのような看護を行ったのかわかりにくい．また，患者の問題点を把握するのに時間がかかるという事が挙がった．

さらに，カンファレンスの時間では拘束や離床についての話し合いが行われ，看護計画の評価・修正や記録を監査する場が設けられていない．そのため，患者の看護問題を共有・見直す場がなく，看護計画の立案・評価・修正がプライマリーに任されているため個人差があり，プライマリー・サブプライマリー間でも看護問題の共有が出来ていない．また，若い看護師の学生時代の学びと違う・中途採用看護師は他院での記録方法と違うため記録がわかりにくいという思いがあるという問題点も挙がった．

Ⅲ．活動の過程と内容

1．目標

POSを定着させる事により，記録から看護が見え，質の高い看護を効率よく提供できるようにする．

2．実際の活動

まず，8月にNusing Care Plan（看護計画：NCP）を充実させ，POSを定着させたい事を病棟会議でスタッフに説明した．

10月に3-4病棟の現状の看護記録の問題点をスタッフに提示し，POSを始めたいため受け持ち患者のNCPの見直しを行って欲しいと依頼した．

11月にPOSの勉強会を実施した．勉強会では①POSとは何か？②3-4病棟で実際に書かれていた看護記録と，その記録を元に係が作成したPOS記録から，看護問題毎に患者の経過・看護師のアセスメントが記載されている部分を5〜6人ずつのグループで抜き出してもらい記録の比較をする．③係が作成した3-4病棟でよく見受けられる記録をグループ毎に訂正する．という事を行った．グループワークを行い，今までの記録は全部を読まないと患者の経過・現在の看護問題がわからない，POSの記録は看護問題毎に記録が書かれているため患者の看護問題に沿った経過がわかりやすく評価がしやすい，A（アセスメント）があるため看護師の考え・判断した理由がわかりやすく参考にもなる，看護問題に沿って記録を書くため現在の患者の状態に合った看護計画が立案されている事が大切であるという事をスタッフに理解してもらった．

12月からPOS記録の実施，1月に記録の評価を行った．

Ⅳ．評価・結果

勉強会の翌日からPOSの記録が見られた．

勉強会から2カ月が経過し，患者の経過に沿った看護問題が挙がるようになった，受け持ち患者の看護計画の追加・修正が行われるようになった．また，A（アセスメント）の記録があるため，その時の看護師の判断がわかりやすくなったという変化があった．

一方で，同じ看護問題に沿った記録が続く（同じ記録が続く），ベッドサイドで記録が書けない，看護計画の立案・評価・修正の方法が統一されていない，プライマリー以外の患者の看護問題の立案・評価・修正まではできていない，パートナーシップ・ナーシングシステム（Partnership Nursing System：PNS）であるが日々のケアパートナー間で患者の看護問題の共有まではできていない，ケアパートナーとの記録の分業が増えてしまったという新たな問題点が挙がった．

Ⅴ．終わりに

今回3-4病棟の看護記録の問題点を明確にし，POSの勉強会を行い，POSを定着させ看護が見える記録の整備に取り組んだ．勉強会を実施した翌日から看護記録が変化した．POSが定着し，受け持ちの患者のNCPの見直しが行われ，看護問題が経過とともに挙がるようになった．

勉強会から数カ月が経過し新たな問題点も挙がったが，引き続き自分達が行った看護が見える記録となるように記録の質を高めていきたい．